

平成30年度 第42回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

女 a

女子 準々決勝

会場 キッコーマンアリーナ

チーム名	総得点		総得点	チーム名																		
白梅学園	23	<table border="1"> <tr> <td>14</td> <td>—</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>—</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td colspan="3">7mTC</td> </tr> </table>	14	—	8	9	—	12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7mTC			20	華陵
14	—	8																				
9	—	12																				
—	—	—																				
—	—	—																				
—	—	—																				
7mTC																						

前半白梅学園は3平野のサイドシュート、2高橋のディスタンスシュートなど多彩な攻撃を見せる。華陵は7松浦のディスタンスシュート、2川崎のポストシュートで追いかけるが、白梅学園の高いディフェンスを崩すことができず、点差を広げられてしまう。16分過ぎ11対6となったところで華陵がチームタイムアウトを取るが点差は詰まらず、14対8で前半を終える。

後半華陵は12石川の好セーブ、白梅学園の退場で10分には2点差まで詰める。その後、白梅学園は2渡辺、7伊藤、華陵は7松浦、15三浦を中心に得点を重ね、互角の戦いをしたが、前半の点差を詰めることができず、23対20で白梅学園が準決勝へと駒を進めた。

31年 3月 27日

記載者氏名 堀内元貴

平成30年度 第42回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

女 b

女子 準々決勝

会場 キッコーマンアリーナ

チーム名	総得点				総得点	チーム名	
那覇西	29	[	13	—	8	]	小林秀峰
			16	—	9		
			—				
			—				
			—				
			7mTC				

女子準決勝、那覇西のスローオフ。小林秀峰は3-2-1 DF、那覇西は6-0 DFからのスタート。開始早々、那覇西東江のカットインと上地汐の速攻で連取。小林秀峰は右サイドの藤原で反撃するものの、那覇西は小林秀峰の高いDFの間を割る宮城のカットインと喜納の速攻で反撃し、那覇西が3点リード。小林秀峰はDFシステムを変え、4-2 DFからの相手の攻め際で6-0 DFに変える変則DFに。その後は、那覇西の仲宗根と小林秀峰の谷口佳帆のナイスキーが続き、試合は膠着状態。前半17分46秒に小林秀峰はタイムアウトを申請。その直後、小林秀峰の谷口美羽によるこの試合初の連取。ここから小林秀峰の反撃したいところだが、前半26分過ぎから那覇西は4連取し5点差で前半を折り返した。

後半の立ち上がり、那覇西の宮里の速攻や上地汐のカットインなどで4連取。9点差で苦しくなった小林秀峰はタイムアウトを申請し、三村と谷口美羽のサイドシュート主体の攻めに移行。その後も、小林秀峰は多彩な攻めを見せ、一進一退の攻防を続けた。小林秀峰の外種子田のセービングも素晴らしかったが、最後まで点差を詰めることはできず、29対17で那覇西が準決勝へと駒を進めた。

31年 3月 27日

記載者氏名 澤崎 亮太

平成30年度 第42回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

女c

女子 準々決勝

会場 キッコーマンアリーナ

チーム名	総得点				総得点	チーム名
不来方	25	10	—	12	23	水海道第二
		15	—	11		
		—				
		—				
		—				
		7mTC				

前半、水海道第二は固いディフェンスからの速攻や17布田のサイドシュートで4対10とリードを広げる。しかし体格で勝る不来方が6藤原のカットインなどで追い上げ、10対12で前半を終える。後半2分、不来方は2東の連続得点で逆転。しかし退場者を出すと水海道第二2田村がカットインを決め13対13と同点に。一進一退の攻防が続いたが、13分不来方は5戸羽のブラインドシュート、11川村の速攻で3点差とリードを広げる。22分不来方がチームタイムアウトを取ると水海道第二は4阿部にマンツーマンをつける。このディフェンスが機能し、後半26分水海道第二6岡本が速攻でシュートを決め1点差とする。しかし逆転とはならず、25対23で不来方が準決勝へ駒を進めた。

31年 3月 27日

記載者氏名 植村 彰太

平成30年度 第42回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

女 d

女子 準々決勝

会場 キッコーマンアリーナ

チーム名	総得点		総得点	チーム名																					
明光学園	19	<table border="1"> <tr><td>11</td><td>—</td><td>4</td></tr> <tr><td>8</td><td>—</td><td>9</td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7mTC</td><td></td><td></td></tr> </table>	11	—	4	8	—	9	—			—			—			—			7mTC			13	宣真
11	—	4																							
8	—	9																							
—																									
—																									
—																									
—																									
7mTC																									

明光学園7村上、6白石の華麗なステップシュートによる連続得点でスタートした準々決勝。明光学園が早い展開から得点を重ねていく一方、ペースをつかめない宣真は7分にタイムアウトを取るが、明光学園の堅いDF、1柿添の好セーブでなかなか得点することができない。前半16分、7対1で明光学園リード。宣真は7奥田の連続得点、堅実なDFにより徐々に点差を縮めていく。流れを変えたい明光学園は22分にタイムアウトを要求。明光学園は堅守からの速攻、ダブルポストからのプレーでリズムを取り戻し、前半を11対4で終えた。

後半は両チーム堅い守りを見せるが、8分明光学園に退場者が出たことをきっかけに、徐々に流れが宣真へ。宣真は8對馬のミドルシュート、5安堂の鋭い1対1などで得点を重ねていき、16分には5点差まで縮める。その後宣真は5安堂、7奥田、9吉本を中心に猛攻を見せたが、前半での点差を詰めることができず、19対13で明光学園が勝利した。

31年 3月 27日

記載者氏名 堀内元貴